

瑞獣 白澤

はく
たく

古今東西、様々な神話、伝説の中には龍や鳳凰、麒麟といったいわゆる神獣や聖獣、靈獣が出現します。その中でも特に中国で吉兆を知らせる靈獣のことを指す瑞獣。実は、その瑞獣の1つである「白澤」の木彫りが川俣町の春日神社や東福沢薬師堂の社殿に存在しています。白澤とは何なのか、その謎に迫ります。

森羅万象に通じる

中国の瑞獣

中国に伝わる瑞獣の一種である「白澤」。人間の言葉を理解し、万物の知識に精通すると言われていました。白澤は、古代中国において徳の高い皇帝の前に出現し、魔除けや厄除けとして信仰されてきました。

国内でも長野市の戸隠山で現在でも頒布されている「白澤避怪図」などにも描かれ、江戸時代後期頃から厄病除けや魔除け、旅の道中安全の御守りとして人々の間で信仰されてきました。

全国的にも珍しい

春日神社の白澤

そんな白澤の彫刻が町指定有形文化財である宮前の春日神社の拝殿と県指定重要文化財 木造薬師如来坐像・木造菩薩立像のある東福沢の薬

師堂に存在しています。全国的に見ると聖徳太子ゆかりの四天王寺阿弥

陀堂（大阪府）や寶珠山大観音寺（三重県）、天恩山五百羅漢寺（東京都）などが有名ですが、白澤の彫刻は全国的にも珍しくとても貴重なものになっています。

白澤を見分ける

3つの特徴

白澤には大きな特徴が三つあります。1つ目は「人面牛身」、顔が人間で身体が牛という特徴です。ほとんどの白澤が角と鬃を生やした男性の顔に、蹄が2本に分かれている牛などの「偶蹄目」の身体を持っています。2つ目は「目」です。白澤の目は両目の他に額に1つ、そして両方の脇腹に3つずつあり、全身にある目の合計は9つにもなります。3つ目は、背中「角」です。頭だけ

白澤の特徴

その1 人面牛身

顔は鬃と角を生やした男性で
身体は牛のような
偶蹄目の姿

その2 9つの目

顔に3つ
右脇腹に3つ
左脇腹に3つ
全部で9つの目

その3 背中の角

頭だけではなく
背中にも
複数本の角

ではなく、背中にも複数本の角が生えています。

春日神社の白澤には 国内唯一の特徴が

昨年9月には国内白澤研究の第一人者である金沢学院大学准教授の佐々木聡氏によって本格的な白澤の調査が始まりました。調査の結果、向拝柱の木鼻の位置に白澤と猯が上下に組み合う構成は佐々木氏の知る限り日本唯一の例であるということでした。

また、春日神社拝殿の構築開始年は享保16（1731）年で、9年後の元文5（1740）年竣工と造営年代が明確であることから、江戸時代後期の人々の信仰についても言及できる可能性が高く、30体を超える豊富な彫刻がある点も非常に重要であるということでした。



町内の白澤彫刻一覧



東福沢薬師堂



春日神社（左）



春日神社（右）